

筑波山と「筑波氏」



糸賀茂男

土浦市立博物館館長
上高津貝塚ふるさと
歴史の広場館長
常磐大学 名誉教授

皆さま、明けましておめでとうございます。輝かしい新年を迎えられたのではないかと拝察いたします。さて、「文化財保存活用地域計画」、「歴史的風致維持向上計画」などの国策の施行に合わせて、土浦市は県内の先進を走り、同時に博物館も上高津貝塚ふるさと歴史の広場も、その対応に余念がありません。

このような日々、私の「筑波山」への思いには一抹の不安があります。それは、「筑波山」の一面的理解の日常です。名峰、紫峰と謳われる山岳ではあるものの、その歴史的知見がまだまだ物足りないのです。古代の「歌垣」万葉歌、そして江戸時代の観音霊場巡りが、まの油口上が優先され、他はほとんど観光案内的にも視野の外にあります。

筑波氏とは

改めてここで話題にする「筑波氏」は、山中・山麓に居住し、中世東国史に確かなる足跡を残している武家の一流です。所伝では、八田右衛門尉知家（小田城主小田氏の祖・常陸国初代守護・鎌倉殿の十三人の一人）の子どもの一人、八郎為氏がその始祖と言われます。為氏の立場は「筑波山別当」、つまり霊地筑波山（神道・仏教の習合体制）の行政的・経済的・人事的管理でした。おそらく、知家の国内権益把握の一環として、

筑波山信仰の包括を図ったと思われます（これは列島規模で一般的に見られる傾向です）。以後、本宗小田氏の鎌倉、戦国の武家系譜が存続しますが、筑波氏も六戸氏・茂木氏などの他の同氏族ともども固有の歴史（武家化）をたどっています。

筑波氏の事蹟

この筑波氏族の特に明らかな事蹟は、室町時代、戦国時代に見られます。残念ながら鎌倉、南北朝期の動向は伝承的にも史料的にも未確認ですが、現在、資料から確認できる事蹟は次のようです。

- ① 応永23、24（1416、1417）年、「筑波源八・同八郎」が、関東管領上杉氏憲（禅秀）らに攻略された鎌倉公方足利持氏の御所脱出に供奉した（上杉禅秀の乱）。これは「奉公衆」としての筑波氏族の注目すべき行動（立場）です。〔鎌倉大草紙〕
- ② 応永31（1424）年10月、「筑（築）波越後守」が小幡左近将監・茨城郡の小田氏流武家かとともに（両使）鎌倉公方足利持氏の命を受け、真壁郡白井郷（桜川市白井）を鹿島社雑掌（社司）に寄進する。〔鹿島神宮文書〕
- ③ 永享7（1435）年8月、「筑波大夫法眼」が、鹿島社造替費用を徴収する常陸国内在住の「富有仁」（有徳



の対立の中で一層注目すべき武家なのです。山中・山麓の筑波氏族の拠点跡（別当家の地位を守備した城、要害・竜替や館や砦）こそ消えつつありますが、筑波山の貴重な史跡として再評価が急務です。

江戸時代以降の筑波氏と筑波山

ちなみに、江戸時代には、筑波氏族も筑波修験の活動の影も消えました。山中に残る岩場、禅定は、修験修行の行場ですが、幕府によって禁止されました。さらに明治期には、「筑波山寺」以来の「知足院中禅寺」（天台宗→真言宗）も「神社」に様変わりし、「山史」は一樣に霧・霞の彼方に見え隠れするばかりです。

筑波山に寄せて

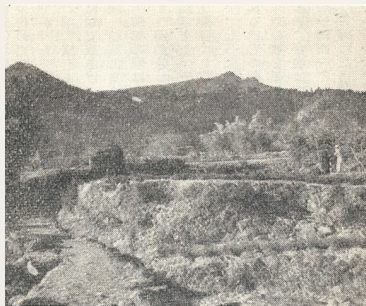
そこで年頭に当たり筑波山のより豊かな歴史像を追求してみたいものです。土浦にあつては、筑波山は、あそこにあるのが当たり前、と言う日常感覚です。しかし、筑波山自体は人によって幾重にも彩られ、人によって途方もなく「利用」されてきたのです。これから時間をかけて筑波山の真の歴史を見つめてまいりましょう。皆さまの新たな筑波山へのご関心を期待いたします。

では、私の年頭の一句です。

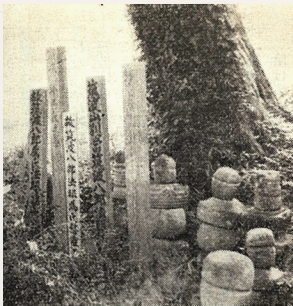
- 人」の一人（「六戸荘」の一分領主権保持者）と目される。〔『続常陸遺文』所収常陸国富有仁注文〕
- ④ 永享7（1435）年8月、「築（筑）波越後守」、小高掃部助（行方氏族）とともに、③の如き「富有仁」名簿を作成して鎌倉府に提出する。〔鹿島神宮文書〕
- ⑤ 嘉吉元（1441）年4月、享徳3（1454）年11月、筑（築）波一族、結城城に籠り、関東公方足利持氏遺児（春王丸・安王丸）を守護しながら包囲軍（幕府方上杉軍）と合戦に及ぶ（一族・家人、手負い・戦死者多し）。〔『永享記』・『結城戦場物語』〕
- ⑥ 享徳4（1455）年2月、「筑（築）波潤朝」、永享10（1438）年以来の一族の「軍忠」をまとめて、鎌倉府に言上（注進）する（恩賞、土地、配分を所望）。〔『諸家文書纂』・『古証文二』〕
- ⑦ 永禄4（1561）年、「筑波太夫（すはま紋）」が上杉謙信による関東武家の「幕紋」調査の対象となる。〔『関東幕注文 常陸之国（国宝・上杉文書）』〕

わずかな史料の所見ですが、筑波氏族の現実が知られます。しかも、「鎌倉府」という室町時代の東国政権（京都將軍家の分権）に密着した「奉公衆」の一員を演じる姿は、「京都扶持衆」（將軍家方、常陸では例えば真壁氏・小栗氏、府中大掾氏・佐竹氏族山入氏など）と

歳神の宿り遠近 紙垂揺れる



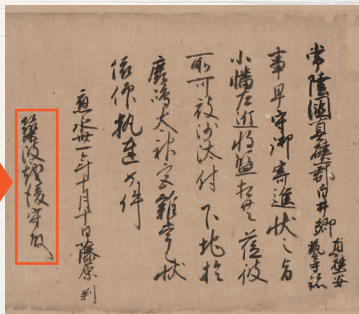
石垣に昔をしのぶ筑波城跡



筑波八郎為氏の墓

『筑波山』 木村 繁／著 （崙書房）

筑波波越後守



足利持氏御教書案（鹿島神宮所蔵）
写真提供：茨城県立歴史館

宛所